

母校との絆をより強く



題字揮毫：奥村一郎

発行所
聖母女学院短期大学同窓会
〒612 京都市伏見区田谷町1
聖母女学院短期大学内
電話 (075) 643-6781
FAX (075) 643-8786
編集発行
聖母女学院短期大学同窓会

根っこを活かして



家政一回卒
同窓会会長
岩田英子

同窓会会員の皆様、この度同窓会報を発行することになりました。短大卒業後、各方面で御活躍されている方々から、「母校と会員をより強く結びたい」「母校の発展が欲しい」「母校のバックアップ体制をもっと強く進めたい」と同窓会や母校へ「一言意見を述べたい」「同窓会や母校へ一言意見を述べたい」と等々の御要望が多く寄せられ、それらにお答えする具体的な手段として生まれました。会員皆様の御希望、情報発展の場として、会員の方々の動向、母校からお知らせをする掲示板としての役割を担う会報となると思えます。沢山の御寄稿を待ちしております。

さて第一回の入学式で初代学長故近末先生が建学の趣旨を述べられ「賢明な女性の育成と教育の重要性」に言及され「将来日本を、いや世界を動かす人物を育てるのは君達女性だ。歴史をみても偉人を育てたのは、しかるべき母だった」と説かれました。三十余年経って娘達の多くは母となり家庭でまた、キャリアウーマンとして社会で職場で懸命に歩んでいます。私は専業主婦としてもまだ半人前で、近末学長様の御期待に添えなくて反省の毎日ですが、学生時代に学び研究した学問、素晴らしい指導者、そして友人にめぐり会えたことは私の人生に大きな影響を与えてくれました。学生時代シスター小野の英語暗唱の課題には苦勞いたしましたが、詩の内容解釈・単語の発音・リズム等頭脳と全身で取り組みなければ評価をいただけませんでした。「英語の先生になる訳でもないのに」と思いますが、シスター小野の熱意と根気に励まされやり抜くことが出来ました。シスター方や先生方の聖母教育によって今の私の諦めたり逃げだしたりしない性格がつけられたと思っております。聖母短大の教育が皆さんの人生において、きつと生かされていると私は信じています。学生時代に育まれた

短大年間行事予定	
4月	入学式
6月	創立記念日
7月	前期試験
11月	追悼ミサ 大学祭 推薦入試
12月	公開講演会 クリスマスの集い
1月	後期試験
2月	学力入試(一次)
3月	学力入試(二次) 専攻科入試 卒業式

平成9年度 入試のご案内	
試験日程 (3学科共通)	
	試験日
推薦選考	11月13日(水)
1次 学力選考	2月6日(木)
2次 学力選考	3月6日(木)

詳細につきましては、学生募集要項を御参照下さい。

創刊号は昨年八月、御他界されました、短大創立の恩人シスター小野に感謝をこめて発行いたしました。

キャンパスは今...

現在の短大キャンパスは、短大本館、別館、福利厚生棟「マリアンホール」と、3つの建物から成り立っています。

本館は、学長室をはじめ、会議室、事務室、研究室、体育館兼講堂、講義室、各種特別教室があります。別館はリズム室、和室、LL教室、大講義室(アセンブルーム)があり、それに加えて9月からは学園の情報化を図り、情報教育を実施するために最新のコンピューターと通信技術を導入したコンピューター室が完成しました。多数のコンピューターを接続し、コンピューターネットワークを構成し、インターネットで世界にネットワークを広げる情報発信基地ともなっています。

そして、平成5年9月に完成した学生福利厚生棟「マリアンホール」は、1階が学生ロカールーム、2階が食堂、3階が自習室、マリアンセンター(宗教部室)、教職員食堂です。自然の光を十分に採り入れたモダンな建築で、楕円形の美しい建物です。最近の卒業生の中には、ここで思い出に残るWedding Partyを行った方もおられます。

懐かしい友と久しく出会える同窓会をこの母校で開催し、マリアンホールを利用してみませんか。

シスター小野

聖母短大を造って下さった方

小野よし先生は聖母女学院短期大学設立に献身的な努力をされたシスターです。高校の方で進学指導をなさって



故 Sr. 小野よし先生

いた時に、生徒や保護者から「聖母に短大を造って欲しい、他校へは行きたくない」と強い要請を受けられ、聖母発展のためには、是非とも意を決したと伺いました。第一回の入学式(家政学科は香里里舎において昭和三十七年四月でありました。短大の教官になられたシスターは、時折内部進学学生のことを「私の連れてきた子ども」と表現なさることがありました。その年の高校卒業生だけでなく、この機を待っていた古い卒業生も、シスターに連れられて入学されたのであります。当時はシスターをマ・メールと呼びしておりましたが、まさに母として小野マ・メールに接した学生は数多いと思えます。

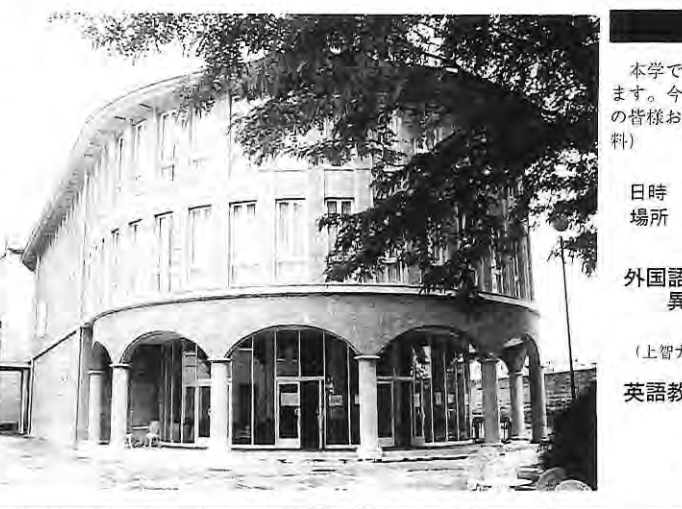
さて、シスターの御日常は大変行動的でした。設備面でも、考えつかれると即座に調査をなさり、完成すると「神様が造ってくださったのよ」とケロッとしておられました。また、一方

善悪をはっきりさせる方で良く叱られました。後で何度も納得させられたものでした。これは短大が小人数制で学生一人、一人を把握しておられ、社会人として送り出すための親心であったと思えます。

シスターは昭和五十九年藤の森学舎との統合を最後に退官され、晩年小田原の修道院に移られました。ある日トリアリスのために写真をお借りに伺いましたが、あれこれ取り出す私に「同じ学年に偏らないように」と御注意の一言!

御退官二十余年を経ても、全ての学生をまんべんに見守られるお姿にただただ敬服させられ、まさに教職にある者の理想像であると追慕いたします。

家政一回卒 山田幸子



短大公開講演会

本学では毎年秋に公開で学術講演が開催されます。今年も下記の通り行われますので同窓生の皆様お誘い合わせの上ぜひ御来聴下さい。(無料)

記
日時 平成8年12月7日(土) PM1:30~4:30
場所 短大 アッセンブルーム

演題
外国語教育と異文化間コミュニケーションの接点
講師 吉田研作氏
(上智大学外国語学部教授・同学部英語学科長)

英語教育におけるインターネット—その位置づけと活用—
講師 藤田保氏
(高崎経済大学専任講師)

また会う日まで



平成七年八月十日の私のメモに、シスター小野入院、と記しています。それから二十日後の三十日早暁天国に旅立たれました。

その前日お見舞に伺った教子先生のシスターには「バイバイ、又来てね」とおっしゃったこと。きつとマメールらしく神様に「もうよろしいわ。なすべきことは全部しましたから。」と云われたのでしよう。

元学長秘書

シスター 椛 治子

ルは絶えずめでたしのお祈りを唱え、苦しい時には「使徒信経」の終りの信仰宣言を唱えておられたようです。深い信仰にはぐくまれ、神への信頼の中に一筋の道を歩まれたマメールでした。

初めてマメールにお目にかかったのは昭和十三年十一月フランスからお帰りに来た日の夕方、寄宿生だった私達は食堂に向かっている時でした。「皆さん今晩は。」と明るく声をかけて下さいました。沈黙で廊下を歩いてた私達も「今晩は！お帰りなさい。」と云ったことを思い出します。その後は英語教諭として教壇に立たれ、戦時中はモンベ姿で生徒と共に工場にも出勤

シスター ベルナデッタ 小野よし先生を偲んで

国際文化学科 学科長

シスター 小川英子



生き方で、わたしたちの先輩、先生指導者としてこれらの年月を生き抜かれました。

シスター ベルナデッタ・小野よし先生は去る平成七年八月三十日早朝、スヴェール愛徳修道会小田原修道院で八八歳の生涯を終え神のもとに帰られました。シスターは一九〇七明治四〇年神戸生まれの明治の女性として、またその時代に若い時から英語を学び、渡仏、渡英によって身につけたヨーロッパ的教養をもった女性として修道女として、非常にユニークなそして感受性に富んだ、同時にとても暖か

シスター小野は一九三八年から聖母女学院高等学校で教鞭をとっておられました。聖母女学院短期大学家政学科創設に際しては、初代学長近末貢先生とともに精力的に働き、一九八四年退職されるまで一筋に、教育の現場にあつて、今日の短期大学の基礎を築いてくださいました。その間学生部長、図書館長などを歴任され、特にエトワール部の指導者として学生とともに、日本各地のキリシタン遺跡を訪問し、信仰の先祖について語ることを喜びに

され、常に率先して行動されました。昭和三十六年末、短大設置認可が発表された時の喜びはそれまでの準備に古屋マメールと共に奔走された大きな賜物であったと思います。その後も常に学院の発展に心を配り、先生方に勉学、研究の機会を与え、御自身も英語科教授として更に研鑽をつむために再度英国にも行かれました。

堂、部屋を飾り、祈りの生活を大切に、共同体の支えとなり、世界の動きに目と心を止め、神との一致の中に修道生活を送られました。卒業後の皆様と共にマメールの遺された言葉、教える心にとどめ、今は天国から皆様を見守っていて下さることを信じ、天での再会の喜びを待ちながら希望をもって生きますように。マメールが苦しみの中に捧げられた信仰表明の祈りを唱えてお別れいたします。



しておられました。今、短期大学の図書館に多くの貴重なキリシタン研究書が集められているのも、シスター小野がそのきっかけを作ってくださいました。退職されてからも体の調子が続くかぎり、全国各地で開催される英文学学会に忠実に、楽しんで参加しておられたこと。京都英国文化センターへの、毎週の訪問は忘れることができません。毎週、少なくとも2冊の原文の図書を借り出し、英国映画を見て元氣よく帰って来られます。そして次の週には図書の返却を理由に外出するので

もう一つ私が感心したのは、絶えず現在の世界の動向に関心を示し、テレビのドキュメンタリー等を通して苦しむ民族・国民のことをよく話題にしてその人々のために祈るよう分かち合いをしてくださいました。こんなシスターの姿を見ながら私も、このようにいつまでも知的にも人間的にも、生き生きとした生涯をおくりたいものだと度々思いました。今頃は天国でわたしたちのために、神に恵みを取り次いで下さっていることでしょう。神がシスター小野の魂が安らかに憩いますようお願いいたしますように。

神様からの預り子



元家政学科教員 松井信代

私の書架には小野マメールの告別ミサの写真が飾ってあります。にこやかな御遺影は純白の蘭やカーネーションに囲まれ沢山の真紅の燭が捧げられております。その祭壇の何と気高く何と美しくありましたか。聖堂に溢れた卒業生はただただ見とれ、まるで陶酔の内にマメール！小野マメールと呼びかけ感謝のお別れを申ししたことでありました。

短大が順調に運びマメールは再度の英国遊学をされました。帰国後は前にもましていきいきとお土産話をして下さいました。私の古い手帳にその日のメモが残っております。走り書いた三行。

三月の風と
四月のシャワー雨が
五月にもたらず花ざかり

神よ、
わたしはあなたにより頼む
「あなたこそわたしの神」
あなたの手に
わたしの生涯をゆだねる。
(詩編 31)

スール・ベルナデッタ
小野よし
生年月日 1907年2月2日
受洗 1907年2月5日
初誓 1932年9月25日
帰天 1995年8月30日

天国のシスター 小野へ



私が、シスターにお世話になりましたのは、聖母女学院の短大時代に、「エトワール部」に入部し、活動を通してでした。シスターとの一番の思い出は、文化祭に発表する「隠れキリシタン」についての研究で、クラブの部長と共に五島列島へ、一緒に行ったこと。シスター小野のお姿を見て、地元の人「尼さん」と呼び一人大笑したこと。福江の堂崎天主堂に行ったことなど。今でも懐かしき思い出されます。又、二回生の時は金沢へ、キリシタンの研究で再び「一緒させていただきました。金沢大学へ行き、近くのお寺でキリシタン燈籠を、みんなで見たい旅行をさせてくださいました。本当に充実した学生時代を過ごしたシスターへの感謝でいっぱい

又、就職活動においても、その時、学生部長をなさっていらっしやいます。シスター小野が自分のことのように心配して相談のつて下さいました。もちろん私だけではなく、すべての学生に平等に同じ愛をもって接してくださいました。その優しさは、はかりしことができません。卒業後も、たびたびお会いしたいと思っておりました。文化祭や同窓会に二度程伺っただけほとんどお会いできなかったことが悔まれます。

幸いにも、就職先で主人とめぐり会い、二人の子供に恵まれて、プロテスタントではありますが、毎週家族全員で教会に通っております。

シスター小野にお会いしなければ信仰を持つこともなく、今の幸福もなかったことと思います。どうぞいつ迄も天国から私たちを見守りお導き下さい。



キャンパス通信

アカシアの木からのメッセージ

児童八回卒
北尾美智江

若葉の緑が目にしみるキャンパスの中で、アカシアの木が今年も白い花を咲かせました。
あれはもう二十年ほど昔……すさま

第一期生

喜びと感謝

昨秋感謝の心一杯にシスター小野への追悼ミサに参列させて頂きました。永遠のお別れに寂しさはつりまじりましたが、御ミサの後控室に集った旧友との



山田教授

久々の語らい、シスターに中・高・短大とお世話になった者、また短大の二年間にせよ親身していただいた者が思い出話に花を咲かせ、シスター、長井先生、松井先生にはお接待にあずかり、その上私達のおしゃべりにも加わって下さいました。そこで、長井先生が「山田さんがこの四月に教授に就任されたのよ」。シスターがどんなに喜ばれたことか！と私達は場所柄も考えず歓声をあげました。シスター御存命中に第一回卒業生の山田さんが教

家政から生活科学へ 新たな魅力

家政二十五回卒
児玉裕美子

家政学科から生活科学科に名称変更して二年目。家政学科〇〇コースを卒業された方は、「何がどう変わったの？」とお思いではありませんか。大きく変わった点は、家政専攻が生



児玉裕美子

風が吹き、歩くとミシミシと音がした階段、狭い学舎で今ほど設備が充実していませんでしたが、素晴らしい学生生活を送った木造の学舎が今とても懐かし思い出されます。
現在は、本館・別館・マリアンホールと立派な学舎が並んでいます。学生数も増え、今や生活科学学



熊谷 穎子

熊谷 穎子

家政一回卒

授になられたことは何よりの恩返しをして下さったと山田さんへ感謝の心が湧きました。シスターのことだから山田さんの手を取って全身で喜びを表現させたこととシスターの最高の笑顔が目につきます。そして先生は「山田さんはみんなを代表して度々お見舞いに行っていたよ」とお見舞いにも伺えなかった私達の相済みなさをなぐさめて下さいました。シスターの追悼と山田さんの教授就任祝いの同窓会を!!と誰からもなく持ち上がり、この春第一回同窓生が集まりました。クラスとしては実に三十二年ぶりの同窓会です。シスター、長井先生、北橋先生、松井先生が御出席下さり、なごやかな宴を開くことができました。花束を受けていただいたその

を広がったことです。また、インテリア関連科目を開設し、インテリアアプランナー試験受験資格の課程も認可されて、ますます充実したカリキュラムとなっています。
生活科学コースを卒業した私にとって、コース制がなくなることに感慨深しいものがありました。単に名称変更しただけではなく、日々魅力的な学科へと飛躍していく姿は、とても嬉しいことだと思っています。



児玉裕美子

国際文化学科の歩み

国際一回卒
西井良枝

聖母女学院短期大学に国際文化学科が創設されたのは、昭和六十二年四月のことでした。私はその翌年の平成元年に、二期生として入学しました。当時一学年約七〇名という小人数だったので、ほとんど全員が顔見知りでした。



西井良枝



西井良枝

三年からの臨時定員増により、今では一学年約一〇〇名となりました。そして先生方の顔ぶれも変わり、授業科目もずいぶん幅広くなっており、卒業研究が当初英米・フランス・アジアの三文化圏だけだったのに対し、それに加えて国際文化・国際関係・社会福祉演習ができました。
このような変化と共に、学科独自の新生入生研修会・留学生との交流会・海外研修旅行等も国際文化学科の伝統として続いています。

- 同窓会役員紹介
 - 会長 岩田 英子(中野)
 - 副会長 横山 博子(池畑)
 - 3回被服 松永 徳子
 - 2回児童 井上 初美
 - 4回食物 堤 よしみ(岡崎)
 - 8回児童 天摩 江里奈
 - 2回服飾 堤 よしみ(岡崎)
 - 18回児童 天摩 江里奈
- 平成7年度各学科役員紹介
 - 生活科学専攻
 - A 植野 修子 小谷 真理
 - B 佐々木 円 柴田 真里
 - C 村上 夏子 山本 知可
 - 食物栄養専攻役員
 - 藤田 早弥佳 松宮 加奈
 - 児童教育学科(27回卒)
 - A 藤井 裕子 松下 洋子
 - B1 河井 亜希 川端 美香
 - B2 田中 幸代 土手 晶代
 - B3 梅島 由賀里 林 さとみ
 - B4 浜口 知恵 新畑 真弥
 - 国際文化学科(7回卒)
 - A 三浦 久美子 森川 ひとみ
 - B 尾崎 友美 塩谷 起世
 - C 加納 優 矢谷 和美
- 現教員紹介
 - 久原 甫
 - 生活科学科
 - 長井 満里子 大岸 素子
 - 谷 喜雄 山田 光子
 - 澤田 寿々郎 久保 妙子
 - 松本 紀代子 横山 早美
 - 遠藤 金次 田川 由美子
 - 山田 幸子 佐々木麻理子
 - 岸部 公子 小谷 博子
 - 中澤 乃智子 水野 菊代
 - 竹村 洋介
 - 国際文化学科
 - 小川 英子 井上 清子
 - 大森 和彦 マリルネ・ワール
 - 星宮 智光 桐野 由美子
 - 佐藤 みさほ 小寺 正洋
 - 松本 好隆 栗本 嘉子

同窓生の皆様へ

*** あなたの骨密度は大丈夫? ***
最近話題になっております骨粗鬆症は、50歳を過ぎた女性に多発するといわれています。同窓生の年齢も50歳代に入りました。骨密度の年齢による低下を調査するため下記の要領で検査致したくぜひ御参加下さい。(無料)

日 時 11月2日(土) AM10:30より随時測定
場 所 短大1階ホール
対 象 40歳以上の同窓生
検査項目 骨密度・血液検査・尿・血圧(朝食抜き)
*ハガキで10月10日までにお申し込み下さい。
申し込み先 聖母短大 山田幸子宛て

平成7年度会計報告

収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
同窓会会費		同窓会名簿印刷費	318,270
生活科学科	1,900,000	卒業生記念品代	349,277
児童教育学科	1,850,000	印刷代・コピー代	2,750
国際文化学科	1,360,000	通 信 費	36,800
		封 筒 代	2,480
雑 収 入	255,435	広岡先生追悼ミサ盛花	52,015
		St.小野追悼ミサ盛花	82,400
		振込手数料	927
		二重振込者への返金	10,000
		退学者への返金	10,000
合 計	5,365,435	合 計	864,919

*詳細は会計井上初美まで

児童教育学科

杉江 正美 中原 喜郎
三俣 俊二 塚本 宏子
加藤 聡子 大草 一治
丸山 宣武 久米 直明
萬 英子 藤岡 道子
橋本 恵以子 中谷 明子
舟橋 斉 杉山 浩之
藤沢 高治 山成 昭世

●現在職同窓生紹介

- ①松永 徳子 ④児玉 裕美子
- ②井上 初美 ⑤西井 良枝
- ③北尾 美智江 ⑥永野 真矢
- ⑦浅井 聡子 ⑧岩佐 香里
- ⑨内泉 美和 ⑩小泉 仁美

シスター小野を偲んで、会報創刊を思い立ちました。創刊号発行にあたり、学内に残っている同窓生の皆様による御協力に感謝いたします。
はじめてのことではないところがあるとは思いますが、回を重ねつつ充実させたいと考えています。私自身創刊号の企画・編集に参加できたことを光榮に思います。
尚、住所不明の同窓生がたくさんいます。住所変更等で会報が届かなくなつた方は、同窓会までお知らせ下さい。又、各科各期の同窓生ニュース等もお知らせ下さい。(山成昭世)